



SSH通信

～第Ⅲ期 新しい挑戦を楽しもう！～

「日本地球惑星科学連合(JpGU)2026年大会」 高校生ポスター 最優秀賞(第1位)受賞！ 自然科学部地学班(3学年)

5月24日(日)千葉県幕張メッセでJpGU-AGU Joint Meeting 2026 が行われました。本大会は、地球科学分野において日本最大の学術大会です。今年はアメリカ地球物理学連合(AGU)とのジョイント大会として開催され、本校生徒11名が高校セッションに参加しました。11名は、班ごと「高校生ポスター発表」、「International Poster Session」及び「JAMSTECハイパーウォール企画 高校参加型企画 High School Participation Project 日本列島の記憶を辿る ～地域の地史を深掘りする学びの場～」にて発表を行いました。

6月29日にこの「高校生ポスター」の入賞について結果が発表され、本校生徒(自然科学部地学班3年)の「氷と塩からみえたエウロパの世界—カオス地形の形成メカニズム解明—」が第1位となる最優秀賞を受賞しました!なお本生徒は8月4日～6日に神戸で行われたSSH生徒研究発表会にも参加して、ポスター発表を行いました。

受賞者のことば

JpGU/AGU高校生セッションでの最優秀賞受賞は、私に常に刺激を与えてくれた多くの方々と環境があったからこそ達成できたものです。地球惑星科学の専門家が集うこの学会での議論は、単なる意見交換ではありませんでした。互いの知識を掛け合わせ、未踏の解や新しい世界を共に覗き込むような、胸が高鳴る体験でした。この場所で感じた興奮と深めた知見を糧に、これからも魅了が詰まった惑星科学の世界へ深く潜り、未知の探求を続けていきます。



SSH生徒研究発表会でポスター発表に臨む本校生徒

SSイングリッシュカフェ(2026.7.14)

本校3学年の生徒を対象に、外国人研究者から研究や出身国について英語で講義をしていただく、SSイングリッシュカフェが行われました。当日は、大講義室において、日本学術振興会様の御協力のもと2名のフェローに來校いただきました。文系選択者の生徒たちには、東洋文庫からDr. Kamaridをお招きし、チベット仏教とチベット語についての講義を、自身のバックグラウンドや言語と文化の結びつきについて、ディスカッションを交えながらお話いただきました。理系選択者と理数科の生徒たちは東北大学からDr. Shahをお招きし、物質科学についてご講義いただきました。

アカデミックな内容を英語で理解することが難しかった、という声は多かったものの、ディスカッションの機会も作っていただき、思考しながら理解を深めていく過程を楽しむことができた様子でした。また英語学習へのモチベーションにもつながったようです。

生徒の感想より

チベット語以外の他の言語にも触れてみたいと思った。非常に貴重な経験だったのに加え、異文化に対する関心も高まった。

気軽な空気で楽しむことができ、周囲の人と適宜講義の内容や英語を確認しながら学ぶことが出来て良かったです。世界史で学んだ知識と結びつく場面が多々あり、楽しみながらお話を聞くことが出来ました。

新しい材料や触媒を見つけるために、実際に実験するだけでなく、コンピュータでシミュレーションをして時間を短縮するというお話がとても新鮮で面白かったです。身近な植物の光合成からヒントを得た研究があることも知れて、科学への興味が深まりました。



2026夏・フィールドワークに行ってきました！

☆『南三陸フィールドワーク』 (2026.6.27)

三高、夏のSSHイベントである南三陸、白神でのフィールドワークは、天候にも恵まれ、充実した内容で実施することができました。参加者は、事前学習で観察や調査の方法、それぞれの地域の自然環境の特徴を学び、当日のフィールドワークに臨みます。地元東北の自然を五感で感じ取りながら、地域への理解を深めるとともに、自然科学的なものの見方を醸成するフィールドワークは、生徒たちの次の学びへとつながっていきます。

6月27日の南三陸フィールドワークは、前日の雨による天候の心配も吹き飛ばす良好なコンディションのもと実施されました。生徒たちは、ラムサール条約湿地志津川湾の海洋の特徴を学び、干潟の生物群の観察を行いました。また中・古生代の地層である南部北上帯の地質を観察し、化石の採集を通して地球史を学びました。東日本大震災からの復興と干潟環境の復元をテーマに環境モニタリングを継続していきます。



☆『白神フィールドワーク』 (2026.7.27-29)

7月27日～29日、青森県西津軽郡深浦町十二湖にて、2泊3日の日程で行われた『白神フィールドワーク』では、参加者20名が、ブナ林での毎木調査、発光生物の観察、日本キャニオンの地形観察、磯の生物観察、十二湖地域での地形観察を行いました。また、実習中は、弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 准教授の鄒青穎(Ching-Ying TSOU)先生、深浦町職員事務長 神林友広先生のお二人に、講義や解説をしていただき、特徴的な白神山地の地形や自然について理解を深めました。



参加者の感想

ブナ林の毎木調査を通して樹木の種類や大きさを実際に調べたり、シュノーケリングを初めて経験し磯の生物を観察したり、自然に触れる貴重な経験ができました。十二湖では、豊かな自然や美しい景観を体感し、白神山地の生態系の豊かさや自然環境を守ることの大切さを強く感じました。

☆ユネスコ『カンボジアスタディーツアー』 (2026.7.24-8.2)

日本ユネスコ連盟協会主催の『高校生カンボジアスタディーツアー』に本校生徒(2年)が参加し、国際協力の現場や、現地の人々との交流を通して、教育や文化、SDGsの観点からカンボジアが抱える課題を学びました。

スタディーツアー参加生徒の感想

ユネスコプノンペン事務所への訪問、寺子屋の視察やアンコール小児病院の見学など、日本ではできないたくさんの経験をしました。特に印象に残っているのは寺子屋訪問です。寺子屋では学習者に将来の夢や寺子屋での勉強について質問し、現地の支援の様子を知ることができました。この経験を国際機関で働くという自分の夢につなげられるよう、今後に生かしていこうと思います。



『全国バーチャル課題研究発表会』参加 (2026.7.23)

2年生理数科5名、普通科3名が、「第6回全国バーチャル課題研究発表会」に参加しました。本発表会は、広島大学附属高等学校を幹事校として開催されている全国規模のオンライン研究発表会で、高校生が研究の完成を目指す前段階である「研究途中」の成果を発表し、全国の高校生や先生方から助言を受けることで、研究内容をさらに発展・改善していくことを目的としています。

本校からは、「エチレングスの影響に関する研究」と「苦味に関する研究」の2題を発表しました。

今回の発表会で得られた助言や気付きを生かし、今後さらに研究を発展させ、校外外での発表や学会発表へとつなげていきます。引き続き、生徒たちの探究活動への挑戦にご期待ください。

